

2. 免疫細胞療法の現状

3. 癌化学療法の個別化—テーラーメイド化学療法をめざして—

VII. 指定講演

肝切除における出血量軽減の工夫

VIII. 総括発言

IX. 閉会の辞

司会 白鳥敬子
清水公一司会 有賀 淳
内田数海司会 林 和彦
座長 高崎 健

大坪毅人

名誉所長 中山恒明

消化器内科教授 白鳥敬子

劇症肝炎患者における TNF 遺伝子の多型性 (SNP) の検討

(消化器内科) 土屋典子・徳重克年・長谷川潔・
橋本悦子・山内克巳・白鳥敬子

〔目的〕TNF を始めとするサイトカインの産生は個人差があり、その遺伝子多型によりサイトカイン産生能が影響を受けることが明らかとなってきた。今回劇症化に密接な関与が示唆されている TNF の SNP を検討し、劇症化に及ぼす影響を検討した。〔方法〕急性肝炎 (AH) 患者、劇症肝炎 (FH) 患者、健常者 (control) 群を対象とし、検討した箇所は TNF- α promoter 領域の position-238, -308, -857, -863, -1031 と TNF- β gene の first intron の SNP である。また、健常者リンパ球で TNF- α の産生能に関しても検討した。〔結果〕① FH 群のうち予後不良群では、TNF- α promoter region position-1031C, -863A, TNF β gene B2 の保有率が有意に高かった。②病因別に HAV 群, HBV 群, HCV 群, NANBNC 群に分類して検討したところ、NANBNC 群において、TNF- α promoter region position-863A と TNF- β gene B2 の保有率が control 群に対し、FH 群で有意に上昇していた。③健常者におけるリンパ球刺激試験では、TNF- α promoter-1031C, -863A, TNF- β gene B2/B2 の保有者では TNF- α の産生能が高い傾向にあった。〔結論〕TNF 遺伝子の SNP は TNF の産生能を介して劇症肝炎の予後に関与している可能性が示唆された。

腫瘍特異的および非特異的免疫応答を併用した複合免疫細胞療法の開発

(東京女子医大大学院 医学研究科 がん免疫細胞治療学分野) 松下典正・田中宜之・

中尾真修・有賀 淳

(J.B. Therapeutics・癌免疫療法研究所)

谷川啓司・小林泰信

(東京女子医大 消化器病センター外科)

高崎 健・清水公一・武下信啓・小寺由人

〔目的〕癌細胞の腫瘍関連抗原や MHC 分子の発現の多様性に対応するために、末梢血単核細胞より樹状細胞, T 細胞, NK 細胞を分離培養することを目的とし、基礎研究を行った。〔方法〕健常人および担癌患者末梢血単核

細胞 (PBMC) から NK 細胞 (CD16⁺, CD56⁺, CD3⁻) を多数含む細胞群 (A-LAK) を分離培養し、細胞傷害性等を検討した。〔結果〕健常人 PBMC からは、樹状細胞, NK 細胞 (A-LAK), T 細胞 (CAT) を分離培養することが可能であり、CAT と比較して A-LAK は非特異的な細胞傷害活性が高値であった。担癌患者 PBMC より得られた A-LAK では、NK 細胞を多数含む細胞群と CD3⁺, CD56⁺, CD16⁺ が優位な細胞群に分類され、細胞傷害活性は前者の方が優れていた。より効果的な A-LAK の培養には NK 細胞の purification が重要であると考えられた。

胆管浸潤型肝内胆管癌の外科病理—臨床像および治療切除例の検討—

(消化器外科) 今井健一郎・山本雅一・高崎 健

〔目的〕胆管浸潤型肝内胆管癌 (浸潤型) の切除成績の検討から、治療切除症例の成績が良好であることをこれまで報告してきた。今回、浸潤型の切除症例の臨床病理像を検討し、治療切除例の臨床的背景を明らかにした。〔方法〕浸潤型切除 21 例を治療、非治療に分け、画像、背景因子、発見の契機、腫瘍マーカー、病理所見について比較した。〔結果〕治療切除例は、胆管像における胆管浸潤の進展範囲が対側肝管に及んでおらず、無症状のうちに検診が発見の契機となった症例が多かった ($p < 0.05$)。〔結論〕検診などで限局性肝内胆管拡張を認めたり、肝胆道系酵素の上昇を認めた場合、胆管浸潤型肝内胆管癌の存在を疑って、精査をすすめることが重要である。

胆管内発育型肝内胆管癌と肝嚢胞腺癌の臨床病理学的検討

(外科 32 期)

富岡寛行

〔目的〕近年注目されている膵の IPMT, MCT に類似した肝腫瘍は従来胆管内発育型肝内胆管癌もしくは肝嚢胞腺癌と診断されてきたが、鑑別に苦慮する症例も少なくない。そこで今回当科において胆管内発育型肝内胆管癌および肝嚢胞腺癌の診断のもとに切除された症例の臨床病理所見を再検討した。〔対象〕2004 年 1 月までの当科での 19 切除例を対象とした。〔結果〕肉眼像では嚢胞腺癌と診断されてきた症例は嚢胞型と嚢腫状拡張型